別紙６－２

一貫教育制度の具体的内容

	教育内容・指導方法名	教育内容・指導方法の詳細
教育内容について	各教科９年間の系統性を図った教育	各教科等において子どもの発達段階に応じ内容の系統性を図った教育を展開することで，基礎学力の確実な定着を目指す。また，９年間を子どもの発達段階に応じて，４・５制や４・３・２制などに分け，基礎基本の確実な定着を図る時期と応用力，発展力などを身に付ける時期など，学年や時期により学習内容の重点化を図る。
	９年間を見通したコミュニケーション力の育成	今後の社会を心豊かに生きるためのコミュニケーション力を身に付けられるよう，国語科の「話す・聞く」など，ことばの学習の強化を図ることで基礎的基本的な言語力を身に付け，「会話科」の授業により，身に付いた言語力の深化を図るなど，発達段階に応じたコミュニケーション力が身に付くようにする。
	中学校英語科との連携を図った小学校英語学習	今後の国際社会に必要な英語力の基礎を培うため，中学校英語科との系統性を強化した小学校英語学習を設定する。なお，教育内容については，今後の国の動向を踏まえながら，本市の実情にあった英語学習を展開できるよう慎重に検討する。
	宮っこチャレンジ等体験を活用したキャリア教育	産業人として必要な職業観，勤労観を育むことができるよう，現在中学校２年生で実施されている「宮っこチャレンジ」の成果等を生かし，総合的な学習や社会科など各教科等における体験活動を通したキャリア教育を推進する。
	地域クラブ活動の実施	今後の社会をたくましく生きる体力や豊かな感性を養うため，小学校高学年段階において，中学校部活動との円滑な連携を図った地域クラブ活動を実施する。地域クラブ活動においては，地域の人材や外部指導者等の有効な活用を図り，中学校との系統的な活動が展開できるようにする。
指導方法について	９年間を見通した発達段階に応じた指導	基礎学力の確実な定着を目指し，義務教育９年間子どもの発達段階に応じた様々な指導方法を工夫する。小中学校教員は，交流人事などにより，小中の指導観・子ども観の共有化を図るなどして，学習指導，生活指導を展開する。
	９年間を見通した体験学習及び異年齢交流学習	子どもの基礎学力の定着やコミュニケーション力の育成を図るため，９年間を見通した体験学習の見直しを行い，交流行事の推進や交流活動などを行う。また，思いやりや夢と希望を育む縦割り交流行事等も設定する。
	ステップアップ学習	子どもの基礎学力の確実な定着を目指すため，朝の学習の時間などを活用して，習熟度に応じた漢字，計算他，スキル学習等に継続的に取り組めるようにする。小中学校教員は，スキル学習の結果をきめ細かく検証し，一人一人の指導に生かす。
	教科内選択学習と選択教科	子どもが自分自身のよさや可能性に気付き，それらを伸長することができるよう，小学校においても積極的に教科内選択学習を取り入れ，中学校の選択学習との円滑な連携を図る。
	発達段階に応じた担任制（学級担任制と教科担任制）	基礎学力の定着や子ども一人一人のよさや可能性の伸長を図ることができるよう，学級担任が子どもの生活や学習を一体的にきめ細かく見取る「学級担任制」と，複数の教員，専門的な視点から多面的に子どものよさや可能性を見取り伸ばす「教科担任制」を，各学校の実態に応じて柔軟に導入する。このためには，小学校教員も自らの専門性を磨き，９年間を見通した教科の目標や内容を系統的に分析するなど，自らの資質向上が必要となる。
	小中交流授業	基礎学力の定着や子ども一人一人のよさや可能性の伸長を図ることができるよう，小学校において中学校教員が専門性を生かした授業と行ったり，中学校において小学校教員がＴＴの授業など小中の定期的な授業交換を行うなどして，９年間を見通した適切な指導を推進する。
	習熟度別学習	基礎学力の定着を目指し，児童生徒の発達段階や各教科の内容に応じて習熟度別学習を取り入れ，子ども一人一人に対応したきめ細かな指導を行う。小学校高学年の国語・算数，中学校の数学・英語において習熟度別学習を実施することで，全ての子どもに，基礎学力の徹底を図る。
	異種学校連携授業（幼保小連携授業，中高連携授業）	学習態度や生活習慣の基礎基本を身に付けられるよう，生活科などにおいて幼保小の連携した授業を展開する。また，生徒の夢や希望を育むために，理科・英語などにおいて，高等学校との連携を図った授業を行うなど，異種学校間の連携を強化する。幼保小中高の教員が，学習活動はもとより，学校生活全般にわたって一人一人の子どものよさや可能性を多面的に見取り，この結果を教職員の情報交換会や個人カルテに反映させ，子ども一人一人の学習や生活の指導支援の方向性を明らかにする。
	小学校教員による学習・生活相談	小学校教員が中学校１年生の担任となり，学習・生活についての相談を行い，生徒の学校不適応などに対応する。
	スクールカウンセラーによる悩み相談	子どもの心の悩みやいじめ，不登校に対応するため，現在，全中学校に配置されているスクールカウンセラーを小学校に配置する。